

今月のトピックス

- インフルエンザ検出状況は、市内ではすべて新型インフルエンザのみです。
- 感染性胃腸炎は、緑区、泉区、神奈川区が警報レベルです。
- 流行性耳下腺炎は、瀬谷区、泉区が注意報レベルです。
- 麻疹の家族感染と、学級内感染が認められました。全員に予防接種歴が1回もありませんでした。

平成 22 年 1 月 25 日から 2 月 21 日まで(平成 22 年第 4 週から第 7 週まで。ただし、性感染症については平成 22 年 1 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

全数把握の対象

1 麻疹:2008 年 1 月から感染症法における 5 類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。

(国立感染症研究所 HP <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

2 月は 24 日現在で 11 例の届出があり、うち 5 例はきょうだいであり、全員予防接種歴が 1 回もありませんでした。さらに 2 例はきょうだいのクラスメイトで、やはり 1 回も予防接種歴がありませんでした。中学 1 年、高校 3 年相当の年齢に MR の 期、 期が行われるのは、2008 年から 2012 年までです。ワクチン接種による予防の大切さを周知していく必要があります。

2 急性脳炎:1 例の届出があり、1 月以前の追加届出も 4 例ありました。新型インフルエンザによるものが 2 例、迅速診断キットでインフルエンザ A 型陽性が 2 例、1 例は原因病原体不明です。

3 腸管出血性大腸菌感染症:1 月の追加届出が 2 例ありました。2 例とも、レバーの生食によるものでした。内臓を含む肉類には十分な加熱が必要です。

一次医療機関の腸管出血性大腸菌感染症の対応については、次をご参考下さい。

(横浜市衛生研究所 HP http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/inf_c0157_guide.html)

4 HIV 感染症:1 例の報告がありました。すでに AIDS を発病している状態でした。性感染症は、予防できる疾患です。感染予防が何より大切ですが、仮に感染しても、早い時期に診断できることで、適切な時期に医療が提供でき、パートナーへの感染予防が可能になります。感染予防に加え、検診の機会の周知が必要です。

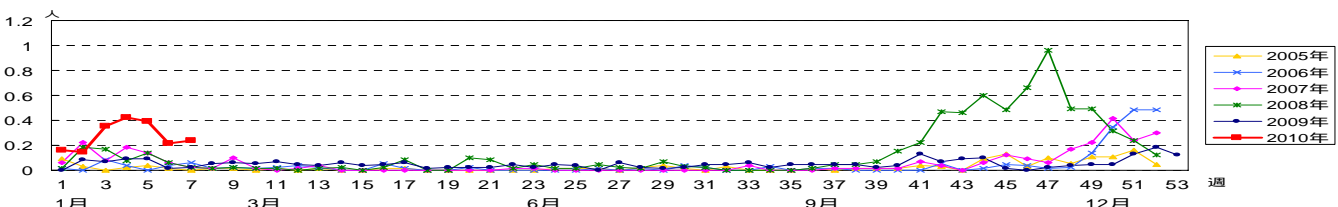
2 月 12 日に発表された厚生労働省エイズ動向委員会報告によりますと、2009 年の年間報告の速報値は、国内で新たに報告された HIV 感染者数は 1,008 件で過去 3 位、エイズ発症者数は 420 件で過去 2 位であり、双方最高だった平成 20 年より減少していますが、検査が 150,252 件と昨年より約 27,000 件減少、相談件数は 193,271 件と、約 37,000 件減少しているので、決して増加に歯止めがかかった状態では無いと思われま。

(エイズ動向委員会報告 http://api-net.jfap.or.jp/mhw/survey/mhw_survey.htm)

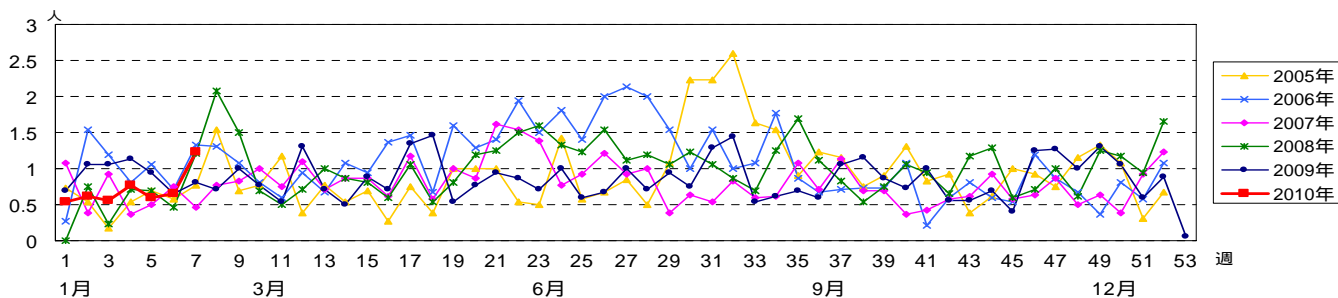
定点把握の対象

1 インフルエンザ:今シーズンは、第 44 週をピークに漸減し、第 7 週では 1.65 まで低下しています。この時期としては、例年に比べると報告数が少なく、過去 6 年で最少となっています。

2 RSウイルス感染症:定点当たり 0.24 と、この時期にしては比較的高く推移しています。届出には、抗原の検出かペア血清での抗体検査が必要ですが、抗原の迅速検査が入院対象でしか保険適用が無いために、届出が患者数を直接反映しにくく、定点報告数での比較ができないとされています。



- 3 **感染性胃腸炎**:例年と異なり、今年に入り上昇が見られています。第7週では定点当たり 10.81 であり、行政区別では、緑区が 27.50 と警報域であり、泉区が 17.75、神奈川区が 16.50 と終息基準に達していません。ノロウイルスによる学校等施設内集団感染の報告もありますので、施設管理者の注意が必要です。全国 12.45、県域 13.20、川崎市 15.94、東京都 11.55 と何れも横浜市より高い値です。
- 4 **流行性耳下腺炎**:定点当たり 0.79 ですが、瀬谷区 4.00 と泉区 3.25 が注意報のレベルです。全国 0.96、県域 1.01、川崎市 0.22、東京都 0.62 です。
- 5 **流行性角結膜炎**:定点当たり 1.22 ですが、瀬谷区が 9.00 と警報レベルです。全国 0.53、県域 1.11、川崎市 0.86、東京都 0.46 です。

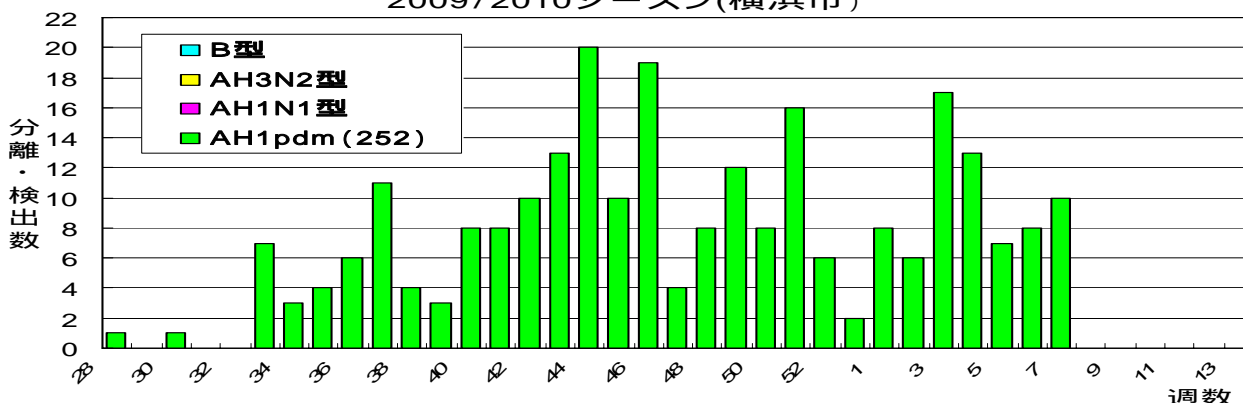


- 6 **性感染症**:性感染症は、産婦人科系の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系の 15 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。1 月は、2009年 12 月に比べて全体としては横ばいです。性器クラミジア感染症は、男性 17 例、女性 11 例でした。性器ヘルペス感染症は男性 7 例、女性 13 例でした。尖圭コンジローマは男性 6 例、女性 5 例でした。淋菌感染症は男性 8 例、女性 3 例でした。

病原体検出状況

2月の検出状況は、59 件の検体のうち検出されたインフルエンザは 35 件あり、すべてが新型インフルエンザでした。全国でも新型インフルエンザが主流となっています。また 35 件中1件はアデノウイルスも同時検出、5件はRSウイルスも同時検出されています。そのほか、RSウイルスが4件、ノロウイルスG が1件検出されています。

病原体定点インフルエンザ分離・検出状況
2009/2010シーズン(横浜市)



この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。
横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>